

国の研究資金制度の活用について ～外部資金獲得の促進に向けて～

日時:平成 24 年 1 月 26 日(木) 15:00~16:30

場所:総合研究棟(理学系 A 棟)1階 理学部会議室

テーマ:国の研究資金制度の活用について

～外部資金獲得の促進に向けて～

講師:塩満典子氏

(独立行政法人科学技術振興機構(JST)

科学技術システム改革事業推進室長)

参加者:本学教職員・学生・一般(約 30 名)



【開催趣旨】

本学では、第2期中期目標に基づき、中期計画「外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置」を定め、研究助成関係の公募情報を学内に周知し、積極的応募を促進するとともに、研究成果やシーズなどの学外への広報を強化し、受託研究費、奨学寄附金などの外部資金の獲得を促進するとしています。本学の平成23年度の科学研究費補助金新規課題の採択率は37%であり、昨年度より9%近く上昇しました。しかし、大学を巡る環境が厳しさを増すなかで、充実した研究活動を目指すために、研究者自らが研究費を獲得する努力を続けなければなりません。

塩満典子氏は、科学技術振興機構の科学技術システム改革事業推進室長を務められ、「研究資金獲得法—研究者・技術者・ベンチャー起業家へ—」(丸善)の著者のお一人でもあります。本講演で示される情報を参考にして、さらに多くの研究者に外部資金の獲得を目指していただきたい。

【講演概要】

塩満氏の講演は、先ず政府及び文部科学省の競争的研究資金についての概要説明の後、「科学技術戦略推進費」、「テニュアトラック普及・定着事業」、「ポストドクター・キャリア開発事業」、「女性研究者研究活動支援事業」等の説明があり、特に、本学が未申請の「テニュアトラック普及・定着事業」への積極的な応募の勧めがあった。さらに、「戦略的創造研究推進事業」のチーム型「CREST」及び個人型「さきがけ」研究と「科学研究費補助金」をとりあげ、どのような申請書を作成すれば採択率を上げることができるか、申請書の項目を具体的にあげてその戦略方法を示された。

講演時間は約 50 分であり、その後、質疑応答が行われた。文部科学省が募集する競争的資金、特に新規事業が公募される際の詳しい情報をどのように得ることができるか等、活発な意見交換がなされた。また、科学研究費補助金を申請する場合、若手研究から基盤研究等へ移行する際の留意点等についても活発な質疑応答があり、予定していた1時間 30 分の講演会を終えた。

